

れる思いもしました。
しかし、子どもを温かく見守って下さる先生方のお導きと励ましがあったればこそ
と思ふ感動にたえません。
あわただしく過ぎた2ヶ月ではあつたけれども、今思えばとても充実した日々であつた。
大平戦争終て静かにあの時代を振りかえるとき、このような貴重な体験を思
い出を持つ幸せをしみじみと感じる。そして当時お世話になつた先生方、多くの友人
との出会いの有趣さを、あらためてかみしめるこの頃である。

戦争の中での養成所時代

二 鶴 生 神 原 信 子

(旧金城)

白き壁 しづかにながれ

みつむれば 白き壁

ちぎれてながれる

うらかぬ陽光の下、土の匂いのする草の上で輪になって、先生と一緒に私たち
よく歌をうたいました。「保健師養成所の思い出」といえば、まづキャラキラとしたこの光景が浮んできます。

大平戦争中の青春、遠く懐しき時代の思い出です。

昭和17年3月、私たち二期生は県内から17人集まりました。膳盛から4人、石
見から6人、出雲が7人というクラスで、いろいろなアグセントや言葉が聞かれ、西
白かったちのです。

教室は当初、母衣町の県立松江高等学校のなかにありました。私は市立高女へ4年間通
学し、また同じ道を家から通うことになりました。暫くして、北田町に女学校が移転
し、私たちもそちらへ移りました。

当時の私たちの服装は、セーラー服の格をはずしてしまった、各自で丸い白衿を作つ
て詰いつけ、黒っぽいモンペのようなズボンをはいておりました。髪は後へひつめ
てまとめ、おだんごにしてビンで留めるという何んともやぼったい格好でした。

女学生の方たちと校庭に並んで朝礼を受けていますと年令はそんなに遡わないのに
私たちには「おばさん」という感じでした。

戦時中でしたので、何かと規制されていました。今のように映画館もあり、映画も
2年目からは、人口問題、統計学などと共に本来の保健婦事業の継続に入りました。

三浦先生の情熱のほどはさしるようなお話を聞く度に、胸がわくわくし、じっとして
おれない気分になつたものです。保健師という仕事を愛しておられる先生は、「あなた
の方はいつも鏡の中にいるつもりで、人から見られていることを忘れずに行動するよ
うに」と勧されました。先覚者の歴史、一期生の方々の活躍ぶりを語られ、中でも印
象に残ったのは、牛のお産を手伝つて村中の評判になり、村人の信頼が厚くなつたと
いう方のことです。私たちも早く第一線に出で働きたい、少しでもお園のお役に立ち
たいという気持で一杯になりました。

三浦先生は保健師へ配達されたりもし、卒業際に最終の農村実習がありました。
單身で1ヶ月間、養成所で指定された村で下宿して、保健師としての一人立ちが出来
るか試されるわけです。私は半農半漁の村を割り当てられました。下宿は地主娘の
はなれで暗く、隣室に小学校の男の先生が下宿しておられました。始めて家から離れ
ることや、仕事のことなどで相談する人もなく、とても不安でした。

村役場では園保健へ配達され、学習した型どおり、基礎調整から始めました。そし
ておむつの干してある家を探しながらの乳児の家庭訪問の毎日でした。赤ちゃんは米
の粉を摂めてミルク代りに飲んで育つており、屋間はおいたさんやおばあさんが面倒
をみている家庭が大半でした。

赤ちゃんを裸にして風呂敷にくるみ、風呂敷など簡易体操で測りますと、全くな
った、大きくなつたと大変喜こぼれました。

園保加入者の家族が対象でしたので、訪問した家の近くにおむつなが干してあっても
「今日は、赤ちゃんが元気ですか。」と声をかけるだけで素通りしてしまうのがとても
心苦しく思ったものです。

お土産だといつて手で創られたかをよくもらいました。バスの便はなく、夕陽が海
に沈む景色をしながら、急ぎ足で授業への速い道のりを歩きました。

上映されていましたが、勝手に見に行ってはいけなかったのです。私はどうしても見
たいフランス映画があり、こっそり見に行ってしまったのです。私はどうしても見
こともありました。

御指導下さった先生は、日本でも超一流で熟練おられる先生方でした。三浦先生と
根本先生のお姿は今も心に焼きついています。

三浦先生は精力的で華やかな人柄でした。
レースの衿のついた紫と白の細かいチェック模様の洋服がよくお似合いで、早口の
力強い言葉で私たちの心をさいぐい引張って下さいました。

橋本先生が始めた教育にお立ちになつた時の印象は忘れられません。姿勢がよく、
結のスヌーツにピンク色のブラウスを着ておられ、言葉は斷然よくとても素直でした。

そのような生き生きとした先生方にふれているうちに、私はあこがれとともに、心
が大きく躍りました。

ひょんなことからすすめられて、何が何だかわからぬまま、保健師養成所の門を
くぐった不安が消しとんできました。

はじめの1年間は看護婦必須科目が主で、一般教養、体育などももあつたように思ひ
ます。人体解剖学、内、外科、産婦人科学、理学療法など、市内の開業医の方や、日
赤病院の先生方が担当されました。

赤病院の先生方が担任されました。
が大きく躍りました。

はじめの1年間は看護婦必須科目が主で、一般教養、体育などももあつたように思ひ
ます。人体解剖学、内、外科、産婦人科学、理学療法など、市内の開業医の方や、日
赤病院の先生方が担任されました。

赤病院の先生方が担任されました。
なぜ滑稽をすると、まず熱が出て、そして痛むのだろうか、どうして同じような滑
稽がいっぱいあるのかしら……。そんな柔軟な質問を中心で絶えながら、気の遠
くなるよう内科学に耳を傾けていました。

解剖学はとても興味深く、黒板に大きく図を書いて説明されました。女学校の生現
解剖室は私たちの質問に対して、教授から下りてしまわれ、「もうこれ以上詳
しく説明ができません。」と云われた時、知りたかったことなどが解明出来て嬉しか
ったものです。

母が産婆だったので、産婆学の本は家にあり、よく見ていたこともあつて、分娩
機械のこところなどは、自然の摂理の差違しさに、ただただ感嘆したものでした。ときに
は沐浴や診察について行き、母の手つきを見たものです。

校医先生の古代文学や宗教のお話は、柔軟で美しい言葉でした。怖いようなお顔からは
想像も出来ない独創のお声で、万葉びとの唇にこび、哀しみを詠った歌を歌々とうたい
あげられたものです。また戯異妙のなかの「著人おもて生をとぐ、悪人をや」と
いうくだりは豊みがあり、それからばかりは力強さ子、岡本かの子、倉田百三などへと読書
がひろがりました。

- 89 -

私たちちはちゃんとした運動着が無かつたものですから、体育の時間に、飛んだり跳
ねたり、逆立ちが出来なかつたのでクラシス代堂だった山口さんが、体育の先生、担任
の先生、私たちの間を行ったりきたりしてて苦労なさつたこともありました。

実技で思い出することは、教室で始めて大皿に注射して、注射の練習をしたこと、実
習室での患者介護法、シーツ交換などの実習で、全身浴式を教えて貰つた三浦先生の
あざやかな手技などは忘れられません。

2年目からは、人口問題、統計学などと共に本来の保健婦事業の継続に入りました。
三浦先生のほとぼしするようなお話を聞く度に、胸がわくわくし、じっとして
おれない気分になつたものです。保健師という仕事を愛しておられる先生は、「あなた
の方はいつも鏡の中にいるつもりで、人から見られていることを忘れずに行動するよ
うに」と勧められました。先覚者の歴史、一期生の方々の活躍ぶりを語られ、中でも印
象に残ったのは、牛のお産を手伝つて村中の評判になり、村人の信頼が厚くなつたと
いう方のことです。私たちも早く第一線に出で働きたい、少しでもお園のお役に立ち
たいという気持で一杯になりました。

病院、保健所、共同炊事場、共同保育所、家庭訪問など実習がつづき、その間に江
川が氾濫し、水害救助に派遣されたりもし、卒業際に最終の農村実習がありました。
單身で1ヶ月間、養成所で指定された村で下宿して、保健師としての一人立ちが出来
るか試されるわけです。私は半農半漁の村を割り当てられました。下宿は地主娘の
はなれで暗く、隣室に小学校の男の先生が下宿しておられました。始めて家から離れ
ることや、仕事のことなどで相談する人もなく、とても不安でした。

村役場では園保健へ配達され、学習した型どおり、基礎調整から始めました。そし
ておむつの干してある家を探しながらの乳児の家庭訪問の毎日でした。赤ちゃんは米
の粉を摂めてミルク代りに飲んで育つており、屋間はおいたさんやおばあさんが面倒
をみている家庭が大半でした。

赤ちゃんを裸にして風呂敷にくるみ、風呂敷など簡易体操で測りますと、全くな
った、大きくなつたと大変喜こぼれました。

園保加入者の家族が対象でしたので、訪問した家の近くにおむつなが干してあっても
「今日は、赤ちゃんが元気ですか。」と声をかけるだけで素通りしてしまうのがとても
心苦しく思ったものです。

お土産だといつて手で創られたかをよくもらいました。バスの便はなく、夕陽が海
に沈む景色をしながら、急ぎ足で授業への速い道のりを歩きました。

- 90 -

参の希

先般廣島市日比山國學院で開かれた日本米穀協會と總會に出席された中國地區の講成会は始日一日として一年餘を跨り、元穀術生課と保糧會員會の御來て今日に至るまでに穀生課努力により準備萬難能くこれら全じゆる各課題の講成課により實り、實に有價無價の知識を得た。この事は實に意義深きものである。

な。又歌謡集議會と云ふ名稱でありましたが再教育を發行してゐたのであります。歌謡はかり者にてるるべしに思ひ、歌謡の個々に小さな力もしだけ出でを必ずやきな力となる。館員日本保育院時間のを出でました。そこで向うの基となり、あらゆる

聞 題 保 本來の活動状況の発表、保健婦の講習問題の討議に便ひましたので、その點お互に充分意見の交換が行つて、中國五縣の路線の運送の面を換りなり心痛されをいたしました。一、その間に特に感じさせた所を一二擧げて見ます。

「開講式の禮方からの訓詞の中に『保健康婦は今や時代の娘兒である政府は勿論あらゆる方面から最も大いなる期待の目で見る」」とあります。この間は保健康婦の燃へ上る仕事はよつてこそ解決され難かれてくるのである。

二年前未だ日本保健婦協会は出来ぬ前と現在の保健婦の年齢の差がある、先日の令には各府県より集つた保健婦は五十歳人の面々に満れています。また、日本の保健婦であるに感立してゐるのである。此際我々一人一人の協力

業 組 合 會 本來の時間は保健康婦の燃へ上る仕事で此の時間を出さるだけ保健康婦の講習問題の討議に便ひましたので、その點お互に充分意見の交換が行つて、中國五縣の路線の運送の面を換りなり心痛されをいたしました。一、その間に特に感じさせた所を一二擧げて見ます。

「開講式の禮方からの訓詞の中に『保健康婦は今や時代の娘兒である政府は勿論あらゆる方面から最も大いなる期待の目で見る』」とあります。この間は保健康婦の燃へ上る仕事はよつてこそ解決され難かれてくるのである。

二年前未だ日本保健婦協会は出来ぬ前と現在の保健婦の年齢の差がある、先日の令には各府県より集つた保健婦は五十歳人の面々に満れています。また、日本の保健婦であるに感立してゐるのである。此際我々一人一人の協力

(日) 鹿月 つむじでゐる。しかも保健衛が其の全國的な團結をして何年や二十余年を経てゐる。その保健衛は果して彼の取扱にそつとお出でゐるだらうか、充分なる力を自分で出来るだらうか、否決して自分等は期待が繋らられたと考へてゐなさい、「今後二箇の努力が望ましい」と云ふ様な御言葉で

(一) あつた。物語此の御言葉を聽つて受け
るには胸一ぱらなじものがある、しかし私は正しく時代から
大きな期待を受け、稍過涉らし
かけてゐる保険婦に異へられ
温かい叱責の聲であると思ひました
比でゐるまことに、まだ主で研究しなけ
ばならぬよりもそれを持てて研究するが古く出
てゐながら「日本保健協会
たる名のもとに統一されて
研である、その強力な精神が
が又保健指導の大要が日本保健
協会によりしつかりとな
る事である。

衛生課の手により既に「保健指導指掌録」が作られ、その第一頁に「保健婦は無産婦からしては貧困にして需要を依頼し得る市町村長、國保組合長が必要と認めた者以外は分娩の介護を請うたるものとナース」とはつきり定めである。即ち、何時も財産を有する保健婦と産婆業の問題はちやんと解消してしまつてある。

第二は保健婦各自の問題指掌力である。先般の會は全部生活指導等は會員の手によつて行はれたしかし女性自身でも深づく機に指掌など女性指導者の指導力や指導方法には不徳底な點が多々ある。保健指導等は大體は内務省に於ては大型な講習会である。保健指導等が常に未経験の新入人間にのみ渡されてゐたならばどうであらう。考へるだけでは氣氛を和せばれる。國會でも中年郎や生産年齢階級を骨も有能とする

（私自身も大いに反省させられた）口減少く、しかも音びしやでなく、キビキビとしてゐて命令多が簡便しく流麗で明快な語彙をもつて、人口問題が大切なる折衝もつて、人口問題が大切なる折衝出来る人はどうぞ精神に於ける社会的訓練を拵拳から選ばなければならぬ。しかる者等の人は、必ずしも此の決断下に身についたら大變である。较少い保母婦はなほ更に、容積の許す限り自分の家庭のみならず出来るだけ大きな面に於て保母指揮

の協力が必要となるのであらうから色々な意味で比較すると、だらしなく見られる保健婦は、誠実な氣持で教育者の持つ良さを理解すべきである。

第三は保健婦の保健婦は一人一人が社会的な問題を持つてゐるに随ひつゝ無い事である。特にこうした感じを持つた時に、まるで専門家に買ねる場合も全然気がつかない、まるで専門家ではない、まるで専門的知識でもあるが、必ずしも専門家ではない。そこで、専門家は「そんな問題はもう私たちは手を出さない」と云ふ調査である。これを多少なりとも保健婦は

はども、何が何であるかをうなづく。例へば鳥取縣の様に産婆郎たちで保険婦であるところでは保険婦である事が生涯の仕事なのである。誰一人として精神するからつてゐない、年を取らうが子供が出来ようが、日進月歩の助産婦の技術にて解説又は保険指掌の大いなる、實に振強いと云ふかそのが進んでゐるからだ。と考へる事で大きな大きさを間違ひである、私達はこんな所に止つてゐるべきでない。各自の保険婦が百死労果を避け内審を充實させるまで求められてゐまね氣魄と努力が必要なのだとそれであって何で決戦下の保険婦がだらう。

方の御氣味が悪いで馬鹿様
に出来ません」と云ふ者も居
るが、「一寸やうな事務所の机に向
てゐるとお説教で訪問に出
る様に云はれるから出ます。
雨が降らうが雪が降らうが毎
日歩きつけてねます」と態
相を訴へをする。

又中には「私はかりじりと何をしない
で机に向つてゐると他の人が
忙しそうに心苦しさからつ
つと車鑰や本を手傳ふので
す」

保育館は訪問を職業とする者
ではない、保育指導をする爲
に個人の環境、家族の状況を
見てつづて指導しなければならぬ
からこそ訪問するのである。
然しながら保育指導等は絶対に
考へられない、何故なら誰で
も人は個々の家庭の中に生活
してゐるからだ。でもるのに
までは訪問が保育館の仕事の

全部であると答へたり訪問の意願を提出せんなり保健婦があると問題はまだこの様に低いところにゐるのかと思はず半券く頭をせられる。結構保健婦がはつきりした仕事の計画をなしに日々をどうにか過ぐからこそ親子問題である。保健師の一年固定が町の行町の中に組み入れられ、更に年月の計画を立てられて、日

の質問を先手先手に投げられてゐる人にこそ絶対的な仕事
も安心してやつて投げられる算盤を頼まれても、他にどう
してもなすべき事があつたらしくなりそのわけも云へるし
又手毎つたからそれが毎日しなければならぬと決めて氣を
つけなければならぬと決めて氣をもさなくておなじ。
訪問で出る出るまでの問題も方

間のための訪問でないから、ちゃんとどこ自分の計算を話し又相手に何が特に考へがある時此はそれを何ぶ様にする、結局は小ささ木枠の問題が根本が決つてゐないひで義に現はれて来たに過ぎない。保育婦と事務の問題も同じである。保育指導等の中にも事務的な多くのものを持つてゐる。

してどうと云ふことはない。しかし其は保健指導に直接關するある事務を指すのである。それ以上を受持つ事は大体本分の力をそぞからであります。少くとも一人の保健婦として數百家庭と、三千人にいた人々の保健指導を担当してゐる。否にこんな少人数を持つてゐる保健婦よりもつと大きな範囲を受持つてゐる者の方が多いだらう。その中に一つの保健婦として働く時何へ力を仰ぐ保健所、病院、園所としても、それだけに仕事は複雑である。決して一人の保健婦が暇うざる等とは考へられない。それなのに、少し保健婦としての経験も出来たらどう云つて事務主任になつたりして保健指導を机上に止めるのは何とした事だらう。即ち云つて事務主任になつた

母さんや姫の力が強い相敵相手もあり、正しい判断と適確な奪力の持主で大に動くべきなもので也有る。眞に見き訪問は良く準備された訪問である。

の胸たがくわづかく、おまけに腰をもたれさせて、だらだらと無駄なだじやべりをしはじまいか。ひどいから、お人を嘲しみ、十つかり訓で質問々そんなく空氣を擡すが訪問がある。ある生徒が盛村實習で妊娠を聞かれて、一生涯帝に指導して接觸してその家を出て普段はひきこもつた時家中で口は

つめの力源訓ゆきして、研鑿分のも並に、指揮が試心體意され
ある。筆記が交われてゐる相
あらはさん「お母さん保護者
人はすくぶん分り易くさうと
かくして、お母さんへおまちをね
ておまちをねる。」
「うまい商賣など云ふ口はなししやべるが
いぶん恐ろしい事が此の村のでは
ある。」
「うまい頭に入つててゐるものでは
ある。」

國民健康運動の厚生省と連絡して、伊東先生が主導して、私はもと財團法人農業会に面接致す。この厚生省は、私が最も印象的である。この唯一の任務であると信じて居たが、しかし果して静岡等に附屬する形が出来る限りの努力を試みてやうとした。今後共宜しく御指導御協力御願ひます。

益田姫木野下喜久江
の歌堂でのもの。感動的
音と感情を一杯に大きいな
ことを抱いて田舎町の木下
りたつたのは、つづいた
な感じがしますがもうあ
三回間餘りもたつてしま
ふと歸つてから毎日忙
た。五日後

てゐましたが本書に手
様に分りました。感謝
たたかの人の初めてな
じみに語ることをつて下
した。他の一人は全然前
した事が分らず最初が
ななければならぬ上に指
ななくて不平ばかりせも
自分は村を營む事がな
記録が不要な事等はな
隣によつて教へられる
に多い。
約の折柄記録等取らん
い」と云はれる保邊郷
たらその保邊郷の記録
が下手であり、かつと
にも紙使用の上にも一
夫が書きし。
保邊郷指導を口からみ
記録によつて後へ後へ
く傳へるべき使命を持
る。

御方には益々御壯健にて御活躍の事と存じ
なりました。此般下
は問題であり又私共保
ます、至つて實力で御
るかと心配して居ります、
より御詫びます。

で無理続ト満しまし
て大上行なれて居る
保母娘大娘の中心……
を聞かれてした所は
掛しと氣がし本から
井上會員の名前の中
今の陸局に拘繋りたる
時ではなし、……そん

は、もつと／＼勉強して指導者となるべきでござ
勝争下に應じた競争會
ました事は専門に於
此の競争會に参加させ
別の御競争を胸りにし
競争と共に私達が保
證意を以つて保護指導
て此の決戦下を耐ぐ可
いたいと存じます。

1. 卒業期別回答状況

(昭和59年9月調)

区分 卒業年月	1	2	3	4	計
	S 17. 9	S 18. 3	S 20. 6	S 21. 12	
卒業者数	58 (35 23)	16	26	19	119
総査用紙送付数	48 (27 21)	13	17	16	94
調査用紙回答数	35 (22 13)	7	15	12	69
回答率	72.9	53.8	88.2	75.0	73.4 %

※ 1期のみ松江、浜田の2ヶ所にて実施

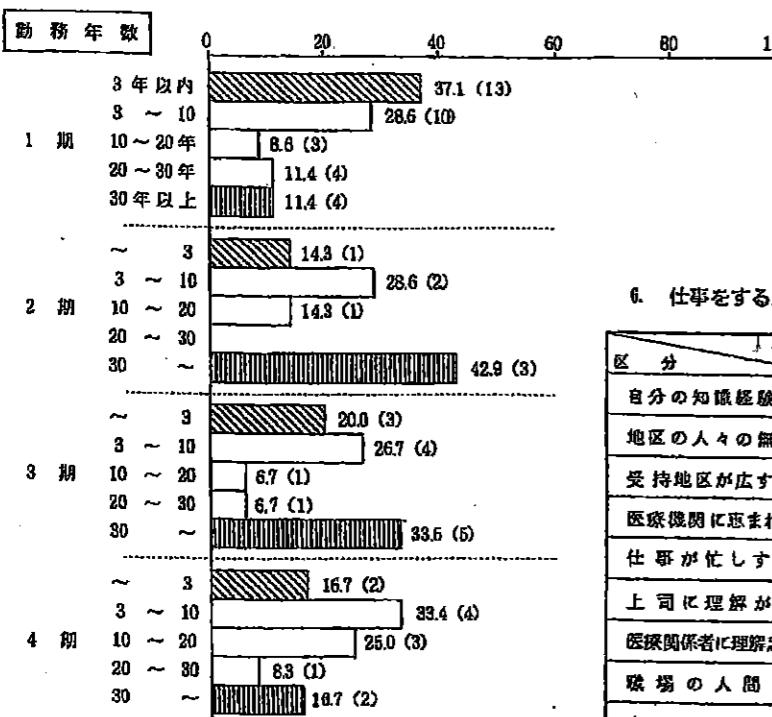
2. 保健婦養成所への入所の動機について

入所への動機 卒業期	1	2	3	4	計
周囲の人すゝめ	29 (82.9)	3 (42.9)	4 (26.7)	3 (25.0)	39 (56.5)
専門知識を得たい	16 (45.7)	5 (71.4)	7 (46.7)	7 (58.3)	35 (50.7)
職業教化と園策に協力	7 (20.0)	1 (14.3)	7 (46.7)	5 (41.7)	20 (30.0)
その他の他	1 (2.9)	1 (14.3)	5 (33.3)	6 (41.7)	12 (17.4)
回答なし	1 (2.9)	0	0	0	1 (1.4)

※ 複数回答、()内は回答総数に対する比

3. 「保健婦」とは何かを入所前から知っていたか。

卒業期 保健婦についての知識	1	2	3	4	計
知らなかった	30 (85.7)	2 (28.6)	4 (26.7)	3 (25.0)	39 (56.5)
新聞等で知った	4 (11.4)	1 (14.3)	3 (20.0)	1 (8.3)	9 (13.0)
知人に保健婦がいた	0	2 (28.6)	4 (26.7)	5 (41.7)	11 (15.9)
その他の他	0	2 (28.6)	4 (26.7)	3 (25.0)	9 (13.0)
回答なし	1 (2.9)	0	0	0	1 (1.6)
計	35 (100)	7 (100)	15 (100)	12 (100)	69 (100)



6. 仕事をする上で最も苦労したこと

区分 卒業期	1	2	3	4	計
自分の知識経験不足	25 (71.4)	4 (57.1)	12 (80.0)	9 (75.0)	50 (72.5)
地区の人々の無理解	14 (40.0)	2 (28.6)	4 (26.7)	2 (18.6)	22 (31.9)
受持地区が広すぎる	12 (34.3)	2 (28.6)	5 (33.3)	3 (25.0)	22 (31.9)
医療機関に恵まれない	15 (42.9)	1 (14.3)	3 (20.0)	0	19 (27.5)
仕事が忙しすぎる	7 (20.0)	2 (28.6)	2 (13.3)	4 (33.3)	15 (21.7)
上司に理解がない	2 (5.7)	2 (28.6)	2 (13.3)	3 (25.0)	9 (13.0)
医療関係者に理解乏しい	2 (5.7)	0	1 (6.7)	0	3 (4.3)
職場の人間関係	0	0	1 (6.7)	0	1 (1.4)
家庭と仕事の両立	0	0	0	1 (8.3)	1 (1.4)

※ 複数回答

資料14

資料18

資料15

資料16

【表1】

業務内容

業務内容 卒業期	1	2	3	4	計	順位
家庭訪問	32 (91.4)	6 (85.7)	14 (93.3)	12 (100.0)	64 (92.8)	1
生活及び環境改善指導	29 (82.9)	3 (42.9)	9 (60.0)	3 (25.0)	44 (63.8)	2
集団検診	22 (62.9)	1 (14.3)	8 (53.3)	11 (91.7)	42 (60.9)	3
健診相談	17 (48.6)	3 (42.9)	11 (73.3)	9 (75.0)	40 (58.0)	4
衛生教育	18 (51.4)	2 (28.6)	8 (53.3)	10 (83.3)	38 (55.1)	5
看護指導訪問	16 (45.7)	2 (28.6)	11 (73.3)	8 (66.7)	37 (53.6)	6
学校衛生	18 (51.4)	1 (14.3)	8 (53.3)	10 (83.3)	37 (53.6)	7
寄生虫予防	14 (40.0)	3 (42.9)	9 (60.0)	10 (83.3)	36 (52.2)	8
地区の実態調査	21 (60.0)	4 (57.1)	7 (46.7)	3 (25.0)	35 (50.7)	9
伝染病予防	15 (42.9)	3 (42.9)	8 (53.3)	8 (66.7)	34 (49.3)	10
保健婦活動のPR	18 (51.4)	2 (28.6)	5 (33.3)	7 (58.3)	32 (46.4)	11
予防接種	12 (34.3)	5 (71.4)	5 (33.3)	10 (83.3)	32 (46.4)	12
共同実習指導	23 (65.7)	2 (28.6)	3 (20.0)	1 (8.3)	29 (42.0)	13
栄養改善	14 (40.0)	1 (14.3)	4 (26.7)	8 (66.7)	27 (39.1)	14
地区組織育成	18 (51.4)	1 (14.3)	2 (13.3)	1 (8.3)	22 (31.9)	15
戦時特殊活動	14 (40.0)	2 (28.6)	4 (26.7)	0	20 (29.0)	16

※ 複数回答 () 内は回答者数に対する比

資料20

年次別にみた資格取得の状況

年月日	免許	養成所卒業	検定	付則免許	その他	計
昭16. 9. 15	0	0	0	52 (100)	52 (100)	
昭17. 12. 30	58 (33.7)	9 (5.2)	105 (61.1)	0	172 (100)	
昭22. 11.	68 (40.0)	87 (51.2)	16 (8.8)	0	178 (100)	
昭30. 10.	27 (19.0)	105 (73.9)	8 (6.3)	不詳 1 (0.8)	142 (100)	

※ 30年の養成所卒業者中2名は保助看護によるもの

【出典】

- 資料1 島根県立保健婦専門学院ほか『草わけの保健婦養成』1985年より。
- 資料2 大国美智子『保健婦の歴史』医学書院、1973年より。
- 資料3 資料1・4および『島根県保健婦会発足20周年記念誌』1962年より作成。
- 資料4 『島根県社会保健婦養成所並高等女学校保健科の概要』より。
- 資料5 資料1と同様。
- 資料6 歴史学研究会編『日本史史料 5 現代』岩波書店、1997年より。
- 資料7 『愛國婦人会雑誌』東出雲町役場所蔵文書。
- 資料8 資料1・4および『島根県保健婦会発足20周年記念誌』1962年より作成。
- 資料9 資料4と同様。
- 資料10・11 資料1と同様。
- 資料12 『島根新聞』1942年7月24日。
- 資料13 『島根産業組合新聞』1944年2月21日。
- 資料14~20 資料1と同様。